

# 〈参考資料〉

## 「手紙でたどる明治時代の移民生活 ～紀三井寺村岩崎家文書から～」

- ・はじめに
- ・パネル①「岩崎甚四郎が渡米した理由」
- ・パネル②「アメリカに到着するまで」
- ・パネル③「アメリカでの働きかた①」
- ・パネル④「アメリカでの働きかた②」
- ・パネル⑤「残されたお峯のこと」
- ・パネル⑥「甚四郎、アメリカにねむる」

# はじめに

和歌山県は、戦前・戦後をとおしての海外移住者数が全国6位の移民県です。令和5年10月には第2回和歌山県人会世界大会が開催され、国内外の県人会会員が一堂に会し、移民の歴史を共有するとともに交流を深める予定です。

和歌山県立文書館寄託の岩崎家文書には、明治・大正時代に紀三井寺村（現和歌山市三葛・紀三井寺・内原・布引・毛見）からアメリカに渡った、様々な経歴をもつ移民たちから届いた年賀状や手紙などが200点以上残されています。紀三井寺村は多くの移民を海外に送り出した地域だったことがうかがえます。

本展示では、明治25年（1892）に紀三井寺村からアメリカに渡った一人の移民の手紙を取り上げます。アメリカから故郷に送られた手紙は50点以上にのぼり、これらを読み解くことで異国での暮らしぶりが分かります。

本展示をとおして、当時の移民の暮らしに思いをはせていただければ幸いです。